



カードカメラ「EXILIM」が好調



当社はカードサイズの液晶デジタルカメラ「EXILIM」を6月に発売。厚さわずか11.3mmの世界最薄ボディに本格的な性能を搭載しました。起動後1秒で撮影可能、シャッターボタンを押してから画像が記録されるまで約0.01秒。次の画像が撮影可能になるまで約0.6秒。このクイックレスポンスによりシャッターチャンスを逃しません。また大型セルCCDの採用で鮮明な画質を実現しました。薄型化と高性能の両立には、インバートテッサー方式のレンズ構成に新開発CCDを組み合わせたHCLi(Hyper CCD-Lens integration)、処理チップをシリコンチップレベルでモジュール化したMCM(Multi Chip Module)、

アナログ信号へのコンバータを不要にした「デジタルインターフェースTFT液晶」など、当社独自の技術が駆使されています。「EXILIM」は、いつでも携帯して好きな時に撮影できるウェアラブル・カードカメラという新しい分野を開拓し、大ヒットを記録しています。同機の斬新なデザインは今年の「グッドデザイン賞」の金賞も受賞しました。好評のため8月からは月産台数を当初の倍の10万台(シリーズ合計)に増強。9月には200万画素モデルも登場し、今期の販売台数は100万台を計画しています。今後もデジタルカメラ事業の核として、ラインアップを拡充していく予定です。

フレクストロニクス社と提携

速い商品サイクルへの柔軟な対応、市場競争のグローバル化に対応するコスト競争力の強化などを実現するため、当社は今期、電子機器の製造委託サービス(EMS)の世界最大手であるシンガポールのフレクストロニクス社と提携を結びました。これにより従来の自社製品の製造ノウハウを活かしつつ、価格競争力の向上や生産リードタイムの短縮などの効果が期待されます。



欧州エアバス航空機の操縦席用に 液晶パネルを供給



高度、速度、位置情報、管制塔からの指示など、多彩な情報が表示される航空機の操縦席。当社はこのたび、欧州エアバス社のA340型機の操縦席に搭載する表示パネルの供給を開始しました。航空機での厳しい使用条件に耐える高い耐久性と信頼性、昼間から夜間まであらゆる光線下で鮮明な画像が表示でき、かつ操縦士席・副操縦士席のどちらからでも全く同じ情報を見ることができる優れた視認性を実現した当社の液晶技術が高く評価されたものです。供給を開始したのは8.8インチ高精細TFT液晶パネルで、1機あたり6枚使用されており、今年度中に約1,000枚、2005年度には3,000枚を供給していく予定です。

「プロジェクトX」で、デジカメ開発物語が放映



写真提供NHK

戦後の画期的な事業を実現させてきた一般の日本人を採り上げるNHKの人気番組「プロジェクトX」。7月2日放送分にて当社が採り上げられました。内容は1995年、当社が初めて世に送り出した普及型の液晶デジタルカメラ「QV-10」をめぐる開発ストーリー。挫折や苦悩を味わいながら進んだ商品化までの長い道のりが、開発者や経営トップの談話をまじえて再現されました。放映後、番組をご覧になったお客様から、たくさんのご感想が当社へ寄せられました。